

～小学生の保護者の皆様へ～

家庭での言葉かけは大切です

主語に、「私は」と入れてみる。

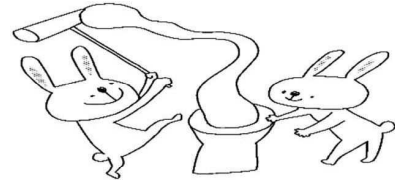
例えば、雨が降りそうな時、「傘を持って行きなさい」というと、命令になってしまい、子どもに考える余地はありません。「(私は)傘を持って行った方がいいと思うよ」と言えば提案になります。そのうち、「夕方雨になるらしいよ」と状況だけ言うと、子どもは考えて、傘を持っていくかを決めるようになります。小さな事ですが、自分で考えるというその積み重ねが、自立を促す事になりますね。なるべく「私は」を意識して話すようにするといいですね。

「ごめんね」を「ありがとう」に変える

約束していた事がダメになったら、「ごめんね」です。でも、仕事で夕食作りが遅くなっても、「ごめんね」、子どもをおいて出かける時も「ごめんね」と言っていますか。夕食作りは、子どもに手伝ってもらい「ありがとう」、出かけて帰ってきたら「お留守番してくれてありがとう」と言しましょう。子どももその方がうれしいし、成長します。「ごめんね」を、たくさんの「ありがとう」に変えてしまいましょう。

「助かる～」 「助かった～」 「ちょっと、助けてほしいんだけど、いい？」 と言う

言い慣れないと、「ありがとう」は言いにくいかもしれません。そんな時は、「助かる～」 「助かった～」 と笑顔で言しましょう。また、「ちょっと助けてほしいんだけどいい？」 とお願いすると、子どもは、役に立つ自分にうれしくなり、手伝いたくなります。自己肯定感も高まりますよ。



読み聞かせ、しませんか？

読み聞かせは、小学生にもお勧めです。読んでもらうと、感情移入がしやすく、内容も理解しやすくなります。

大人が読んでもおもしろい子ども向けの本

「ペレのあたらしいふく」エルサ・ベスコフ（福音館書店）ペレは自分の服が小さくなると自分で世話をしている羊の毛を刈り、おばあさんの所へ、...

「サリーのこけももつみ」ロバート・マックロスキー（岩波書店）こけももを摘みに出かけたサリー親子。途中、山でクマの子どもとサリーが入れ替わってしまい、...

「きつねのホイティ」シビル・ウェッタシンハ（福音館書店）ごちそうが食べたくて人間に変装したきつねが、村へ来て、...

「ディック・ウイットントンとねこ」マーシャ・ブラウン（アリス館）貧しいディックは1ペニーで猫を買い、幸運が始まる。

「新幹線のたび～はやぶさ・のぞみ・さくらで日本縦断～」コマヤスカン（講談社）新青森駅から新幹線に乗ったはるかちゃん一家は、鹿児島のおじいちゃんの家へ。日本縦断を俯瞰して描かれている。

「いっぽんの鉛筆のむこうに」谷川俊太郎（福音館書店）写真とイラストでわかりやすい。鉛筆から世界が見えてくる本。

家庭教育支援員

清田智子

生涯学習課

25-7232

